

「障がい者福祉の体験」

担当教員 朝比奈茂 宮川路子

コース概要

日程 2019年8月1日～17日

場所 群馬県安中市松井田町 ゆきわりそう山荘

参加人数 20名

コースのねらい

障がい者と合宿を通じて寝食および行動をともにすることで、人間としての生き方を実感します。また福祉活動における仕事内容、それに携わっている方々と意見交換をすることで、現在の福祉環境について理解を深めます。

内容

本フィールドスタディは、1999年学部創設以来、現在まで行われてきたロングラン・プログラムであり、「人間」について深く考えることの出来るプログラムの一つです。豊島区南長崎に所在する「ゆきわりそうグループ (<http://www.yukiwari.org/top.htm>)」の理念に共感し、互いに理解しあいながらここまで歩んできました。

人間の成長段階における最終章となる大学生の時期に、障がい者に関する知識や情報をほとんど持たない状況で、同じ人間であるのにあまりにも違う生き方をしている障がい者の方々と、寝食をともにする「合宿形式」で過ごすことにより、「人間について深く考える体験が出来た」と、これまで参加したOB・OGの方々が述べております。普段私たちは、自分の意志によって行動を決定し、自由に日常生活をおくることができます。これは当たり前なのですが、そうでない人が世の中大勢いることを、このフィールドスタディを通じて身体全体で感じ得るプログラムであると実感致します。



写真1 マラソン教室 靴紐を結ぶスタッフ



写真2 マラソン教室 障がい者と一緒に走る学生



写真3 ゆきわりそう施設内にある乗馬施設



写真4 障がい者と一緒にお茶を飲む学生

学習を終えて（参加学生の報告書より）

障がい者の方々と生活をして、普段経験できない体験ができました。障がい者の方々も私たちが思っているより自分で行動できるし、思いを伝えることができることがわかりました。私の中にあつた障がい者の方に対する固定観念が変わりました。私たちより優れた能力を持っていて、なんと言っても心が綺麗で無邪気でした。一緒にいて楽しかったです。たくさん大変な思いをしましたが、最後のミーティングで「利用者さんの両親は365日24時間見守っているのだよ」という言葉に納得し、少しは両親の方々が休める手だすけが出来たのかな、と思います。今回この経験は特に夢がなかった私に気づきをくれました。将来は、身体的、精神的に弱く困っている人が喜ぶ、役に立つ道具や物を作ったり、提供できたりするような仕事に就き、いつか経営できる人間になりたいと思いました。今回このような体験をさせて頂いたスタッフをはじめ、ご両親に感謝申し上げます。有難うございました。（3年 男子学生）

この3日間が始まる前は、とても緊張していたし、普段、障がい者の方々と関わる機会がなかったので、不安でいっぱいだった。正直、この3日間が楽しい思い出ばかりでなく、辛い思いもしたことも多々あった。「どんな言葉をかけたら良いか」、「私の支援は間違っているのか」、「どうしたら伝わるのか」など様々なことを考えた。なんとか相手に理解してもらえるように、自分なりに工夫して伝えたり、消極的な私でも積極的に話しかけていくと、喜んでくれることもあつたし、障がい者の方はきちんと私に伝えてくれた。最終日にはお別れをするのが寂しかったほど、楽しむことができたし、解放感もあつたが記憶に残る体験ができた。またスタッフの方々の姿を見ていると、疲れた姿を一切みせず笑顔で過ごしていたので、私も見習わなければいけない、と感じた。辛いことが多くある中で、笑顔と一緒に作業したり、会話をしたりすることが出来た時は、心から嬉しく、その時のことを今でも覚えている。普段当たり前に出来ていることは、障がい者の方々からしたら、当たり前ではない。障がい者の方々も私たちと同じ人間であるので、今後はこの経験をいかしてできることは進んで役に立ちたいと思う。（2年 女子学生）